

文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課

2020年度「障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」参画事業

—あらゆる人に生涯音楽プロジェクト—

MUSIC with LIFE for ALL PROJECT

M L A P

(ムラップ)

2018年度～2020年度

障がい者の多様な学習活動を総合的に支援するための  
超参加型の音楽活動を軸とした実践研究

福岡市手をつなぐ育成会保護者会



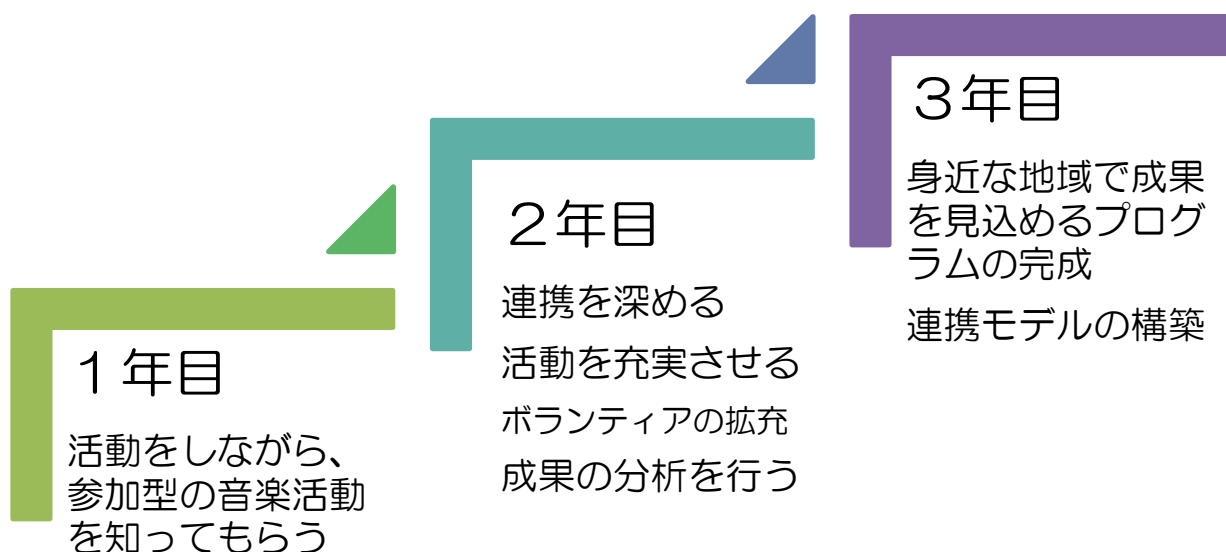
<MLAP の生涯学習としての意義>

- MLAP は誰もが参加できる音楽イベントを開くことで、自尊心の向上や精神的な安定を得ながら自立や自律に繋がり、参加して下さったみなさんの心と心をつないで豊かな地域生活を送ることができるようになる効果をねらいとした生涯学習プログラムです。



- MLAP は、音楽体験を通して障がいのある人が社会参加できる機会を増やすこと、また地域住民みんなと一緒に音楽活動をするることによる障がいへの理解を含めた共生社会、そのように、みんなが共に歩むことができる社会の実現への力になると考えます。

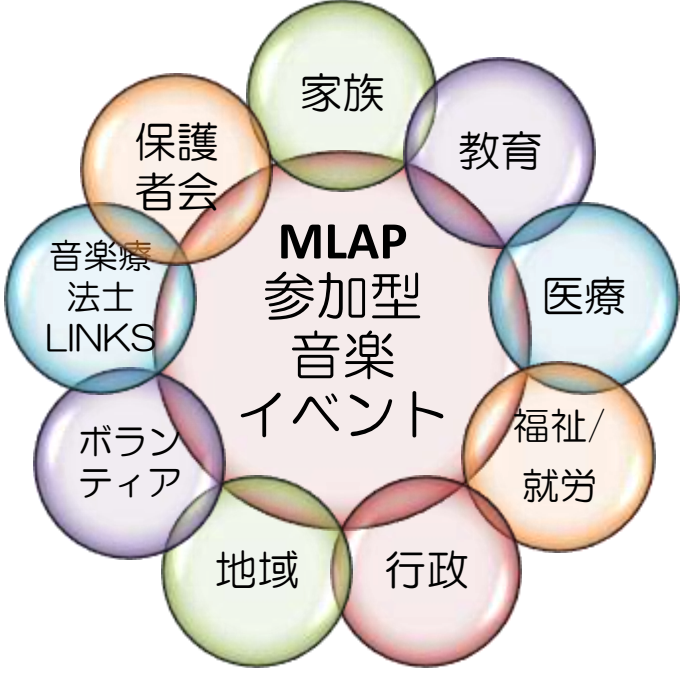
## <3年間のMLAPの目標>



### <目次>

3年間のMLAPの目標	2	MLAPパンフレット	99
MLAPはさまざまな方と連携しています	3	定例実践報告	100
MLAPは福岡市のすべての区で開催します	3	ケーススタディ	107
MLAPでは11の活動を組織的に実施しています	4	共生社会を見据えた調査結果	112
MLAPの特徴	5	学習プログラム構築を見据えた調査結果	114
MLAPのプログラム・MLAPの構造	6	対外的研究発表報告	116
MLAP…の動画への取り組み	7	MLAPアンケート用紙サンプル	117
多様なMLAPの活用方法	8	今後のMLAPの展開	118
3年間学校卒業後における障害者の学びの支援に関する 研究実践事業に取り組んで・下山いわ子	9	ボランティアの感想	119
MLAP実践報告会スライド・米倉裕子	13	連携協議会構成員のMLAPへの想い	122
MLAP実践報告会原稿・米倉裕子	15	博多音楽療法コミュニティ LINKS	136
超参加型音楽イベント実践報告・コミュニティ対象	23	連携協議会開催報告	139
超参加型音楽イベント実践報告・家族やサポーター対象	54	連携協議会構成員	140
超参加型音楽イベント実践報告・ワークショップ	60		
超参加型音楽イベント実践報告・シンポジウム	67		
超参加型音楽イベント実践報告・コンファレンス	79		
超参加型音楽イベント実践報告会	87		

**MLAP はさまざまな方と連携しています**



**MLAP は福岡市のすべての区で開催します**



- 東区
- 博多区
- 中央区
- 南区
- 城南区
- 早良区
- 西区



—あらゆる人に生涯音楽プロジェクト—

MLAP Music with Life for All Project



障がいのある人の生涯学習プログラムの開発のために、  
MLAPでは11の活動を組織的に実施しています

MLAP 動画

超参加型音楽イベント  
年齢・性別・国籍・障がいの  
有無などに関わらず、  
地域住民の誰もが参加できる

障がいがある  
小6までの児童の  
グループ音楽遊び  
ビートン

障がいがある  
中学生以上の人  
の小グループ音楽療法  
ノートン

障がいがある  
個人を対象とした  
音楽療法<ほっぷ！>

保護者対象の  
音楽体験

シンポジウム

ワークショップ

音楽療法士を中心  
とした勉強会  
LINKS

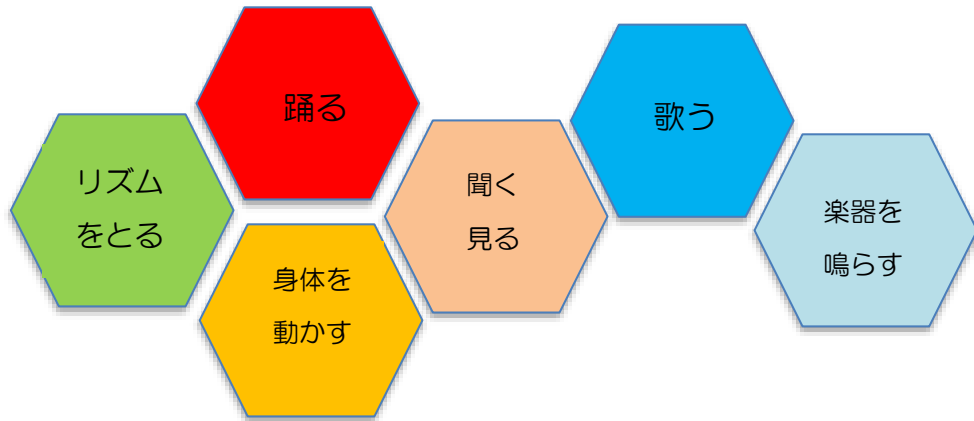
ボランティア  
養成講座

視察

# MLAPの特徴

- MLAP が超参加型音楽活動を手段とする理由は音楽の柔軟性を利用することで、個人でも集団でも、CLOSED でも OPEN でも、能動的でも受動的でも、身体と五感を使ったあくまで本人主体のあらゆる参加方法が可能になるからです。
- MLAP の特性を生かし、人とのふれあいを楽しみながら、本人の障がいニーズに合わせたコミュニケーション力を音楽経験によっていつの間にか学習することができます。
- MLAP は、よく訓練された MLAPPERS (ムラッパーズ) によって展開されます。

例えば。。



<MLAPのパンフレットより>

## MLAPのプログラム



超参加型音楽活動 MLAP で実施している活動内容は、主に

- 歌唱、声の活動
- 楽器活動
- 身体を使った活動
- 鑑賞

この4つで、対象者や、実施時間、場所などに合わせて、単独で実施したり、組み合わせたプログラムを計画し、実施しています。

### <MLAPの構造>



♪MLAPの活動の中心にあるのは、MLAPPIES（参加者）です。MLAPPIESが安心して超参加できる音楽環境を整えるのがMLAPPERS（音楽リーダー）で、このプロジェクトにおいては、音楽療法士がその役割を担いました。

## MLAPの動画への取り組み

人と繋がる、人と人との距離を縮めるために、むしろ「密」を奨励していたMLAPの活動は「3つの密」を避けなければならないコロナ禍の状況では、ほぼ実施ができなかったことから、2020年度はMLAPの動画を作成して配信しました。いかなる環境の変化においても、フォームを変えながらMLAPを実施していける理由のひとつとしては、柔軟性という特徴がある「音楽」をセンターに置いている活動であるから、といえます。

この動画の配信は、「リアル」にこだわっていた超参加型音楽活動MLAPの広がり阻止するものでは決してなくて、むしろ、MLAPのパラダイムに近づくための視点の広がりであると捉えました。



オーシャンゼリゼ

<https://youtu.be/uzWhHp9Gf4o>



たいこづくり

[https://youtu.be/wa\\_gAYDOzuU](https://youtu.be/wa_gAYDOzuU)



【手話ソング】糸

<https://youtu.be/7lvWApUWVY>



ぼちぼちいこか

<https://youtu.be/sxgRaMz75cM>







【手話ソング】花は咲く  
<https://youtu.be/LjlEEjUCXml>



楽器なしでも楽しめる【拍手回し】  
<https://youtu.be/7yORZzoifKs>

手話ソング【ハピネス】  
<https://youtu.be/Tm3PIEJztwE>



手話ソング【ありがとうの花】  
<https://youtu.be/QRXu9M1O-R0>



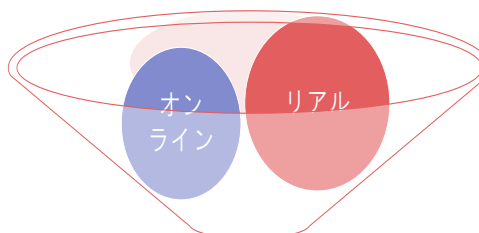
他にも様々な動画をアップ中です。是非、「福岡市手をつなぐ育成会保護者会」のホームページをお尋ねください♪

## 多様な MLAP の活用方法



生涯学習として、余暇活動として、職場やスタッフ、また地域社会のコミュニティの活性化に、対象者を問わずに、MLAP の超参加型音楽イベントは活用できると考えています。リアル MLAP では、MLAPPERS が出向く事も可能ですし、

MLAPPERS が主催の超参加型音楽イベントを実施する事も可能です。加えて、動画というオプションを手に入れた MLAP は、いつでもどこでも誰とでも、そこが MLAP の「場」になります。



## 3年間学校卒業後における障害者の学びの支援に関する 実践研究事業に取り組んで

下山 いわ子

私は、本実践研究事業の主催者であり、重度の知的障がいのある息子の母でもあります。障がいのある人が幸せに暮らしてほしい、みんなが楽しく暮らせる社会であってほしいと日頃から切実に願って活動をしています。

そのために、3年前、文部科学省の「学校卒業後の障害者の生涯学習の支援に関する実践研究事業」に公募したのには3つの理由がありました。

第一に、当時福岡市教育委員会教育支援部生涯学習課 牟田智佳課長（現 福岡市博多区保健福祉センター福祉・介護保険課長）からこの実践研究事業の公募について声をかけていただいたことです。

第二に、学齢期は文部科学省、卒業後は厚生労働省という、いわゆる「18歳の壁」というものを感じていましたので、この事業では障がい者のライフステージに沿った切れ目のない支援体制について文部科学省が取り組むんだ！と、期待をとっても持ったからです。

第三に、当会では20年ほど前から音楽療法士の米倉裕子先生のご協力により、音楽療法を軸とした「音楽あそび」という活動を行っており、この活動のコンセプトと公募のコンセプトが一致していたからです。

米倉先生の音楽療法は、だれでも参加でき、参加する人の参加の仕方・楽しみ方が尊重されて、マイナスの評価がない、その空間から自然とコミュニケーションを学ぶことができる、というとても心地良いものです。

この研究事業を実践すれば「音楽療法を気軽に継続して参加したいので身近な場所で開催してほしい」という声に応えられようになるのではないかと、「この活動が広がって、定着すれば、だれもが楽しい共生社会が実現する！」とわくわくして、米倉先生と妄想を膨らませて話したことを思い出します。

以上のことから、申請締め切りまでに1週間ほどという時期に無謀にも手を挙げていました。

いざ、計画書の作成を始めると実践研究の内容は米倉先生と相談しながら計画できましたが、当会の関係者だけではなく、活動を広めるためや活動のエビデンスを示すために連携協議会委員の就任をお願いしなければいけない、という大きなハードルがありました。

障がいのあるご本人、教育委員会関係者、障がい部関係者、特別支援学校長、大学の福祉学科の教授、福祉事業所関係者、社会福祉協議会関係者、障がい者フレンドホーム関係者と多様な部署のスペシャリストのみなさまにお願いを申し上げ、快くお引き受けいただき、締め切り日に文部科学省へ駆け込んで、ぎりぎり企画書を提出することができました。

おかげさまで受諾され、3年間も研究事業に取り組むことができました。

本事業の実践は、当会で行っていた clause な音楽遊びから、地域の方たちを含む open な実践へ広がり、MLAPPERS 育成を念頭にボランティア養成講座も行いました。

成果評価は、シンポジウムやワークショップ、報告会や連携協議会において、実践成果のエビデンスを明らかにして成果分析・評価を行いました。

成果のエビデンスを定量的に示すことは、「楽しかった」という気持ちを数値的に表すために、「アンケートの選択肢を絵にする」「手を挙げる」「花をかごに入れる」など工夫をして数値化しました。ただ、知的障がいのある人たちは、「楽しかった？」と質問すると「楽しかった」と返事することも多いことが課題となり、次に笑顔や周りとのコミュニケーションをとった回数などの記録を米倉先生や音楽療法士の会の LINKS メンバーの方たちが試みて下さいました。しかしながら、MLAP のコンセプトに「その人なりの参加の仕方を尊重する」があり、たとえ笑顔でなくても「楽しい」と感じている人や輪に入っていない人も「楽しい」と感じている人がいることを数値化することも困難でした。

そのような中から「次も参加したい」を中心に成果とみて、米倉先生を中心に連携協議会の中でエビデンスを数値化し、MLAP の成果を確認してきました。

1, 2 年目は、当会独自では試みることがなかった教会での実践や、重症心身障がいや視覚障がい、聴覚障がいの方たちとのかかわりもできました。

3 年目の今年度は、実践をさらに回数を重ね、MLAP 実践拡大促進、連携モデルの構築を目指そう！と意気込んでいましたが、コロナ感染拡大により予定したことが全くできなくなりました。

社会情勢の中では動画配信やオンライン研修等の広がりもありましたが、MLAP は、人とかかわりあいながら、自然にコミュニケーション力を育んだり、知り合うことが軸でしたので、触れ合うことができない動画配信に意義があるのか、連携協議会でも LINKS メンバーでも協議しました。その結果、今、できることをやってみよう！、動画配信やオンラインで発信してみようと決定しました。

連携協議会委員に新しくオンライン担当者に加わってもらい、LINKS メンバーのみなさんがプログラムを録画して下さり、動画配信を実施でき、現況のような事態でもつながれることや楽しさを提供できる新しい形を加えることができました。動画を活用したプログラムの活用の提案や希望もあり、活動の幅が広がったのです。

参加者から以下のような変容や感想があります。

**Bさん** (重度の知的な障がいのある) : 最初は、参加者の立場でしたが、体験を重ねると「ボランティアをしたい」と音楽療法士の見守る中、ボランティア活動に参加し始めた。

**Cさん** : 知的な障がいがあり、急ニ視覚機能が低下し、生活にも活気がなくなり、車いす

を使用するまでに至っていましたが、MLAPに参加すると、自らたち上がり、楽器を鳴らしたり、歌われたりされ、最後は、「楽しい」と号泣された。

**Dさん**（視覚障がいのある）：継続して参加されました。1回目は「なぜ参加しないといけないのか」と不満げだったのが2回目は顔を上げて参加され、3回目は「楽しい！次はいつ？」と手話で話しかけてくださった。

**Eさん**（知的な障がいのある）：福祉事業所でMLAPを体験後、地域でのMLAP体験会があると知り、自ら場所や交通機関を調べて、実際に参加され、生き生きと活動された。

**Fさん**（知的な障がいがある）：個人を対象とした音楽療法を経て、小さなグループを体験し、地域住民との活動へと広がっていった。

**障がい者福祉事業所の職員**：MLAPの活動で生き生きとした利用者のみなさんの様子を見て、支援の仕方を再考した。

**高齢者事業所の職員**：障がい者だけではなく、高齢者もとても楽しめた。楽しそうな利用者のみなさんの様子を見てうれしくなった。

**学生ボランティア**：最初は、正直に言って障がい者が怖かった。でも、一緒に参加していくうちに、僕とかわらないんだ、と気づいて、一緒にいて楽しかった。

**地域の参加者**：障がいのある人と一緒に楽しめるのか、と置いていたけれど、障がい者とか関係なく、楽しかったよ。

**保護者**：いつも“ご迷惑をおかけして申し訳ありません”と言いながら肩身の狭い思いで行事に参加しているけれど、MLAPは、気兼ねなく参加できて楽しく、楽しい中に、人のかかわりかたを学ぶ機会にもなっている。今は、親が車で連れて行けるので、どうにか参加できている。もっと身近なところで開催してもらえると、継続して参加できるのに。

**保護者向けのリラックスポログラム**：「気持ちよくて寝ちゃった」「おとなには、おとなの音楽遊びがあるんだ、と知った」

**動画配信プログラム**：のりのりで一緒にやっていてびっくりした。

みなさんのうれしい感想で力をもらい、次へ、次へと楽しく3年間進むことができたんだと思います。

3年間のMLAP実践研究をとおして、MLAPの楽しい！という体験は障がいのある人にとっても、地域住民の方たちにとっても自尊心の向上や精神的な安定を得ることができ、障がいのある人に社会参加の機会やコミュニケーションを学ぶ機会となり、地域住民のみなさんには障がい理解を広めるという成果を実感しています。

3年間の研究事業終了を前に、MLAPの種をまいておきながら「次も参加したい」という声をそのままにできない、と強く思うようになりました。「気軽に継続して参加できるように身近な場所で開催して。」「次回も参加したい」という声に応えたいです。

連携協議会委員のみなさんもこの気持ちに共感してくださいました。



本事業に取り組めたおかげで **MLAP** が生まれました。

**MLAP** には、素晴らしいプログラムがあります。

**MLAP** にはいつでも笑顔で **MLAP** プログラムを実践して下さる米倉先生をはじめ LINKS メンバーの方がいます。

**MLAP** には3年間も一緒に取り組んでくださった連携協議会委員の方たちがいます。「**MLAP** には意義がある！これからも協力するよ」という心強い応援をしてくださいます。

**MLAP** には「うちの地域に来てよ！」と声をかけてくださる地域住民の方や、何より「次はいつ？」と聞いてくださる障がいのあるご本人たちがいます。

**MLAP** を次のステップにつなぎたい！と思います。

最後になりましたが、3年間も本事業に取り組むことができ、「ムラップ」が自然使われるようになり、「**MLAP** をこれからも続けてほしい」と言ってもらえるまでになれたことは、本事業の実践を一手に受けて下さった米倉先生、LINKS メンバーのみなさん、業務ご多用の中、ご協力・応援して下さった連携協議会委員のみなさま、実践の場を提供していただきましたみなさま、ご経験や知識を提供して下さった講師のみなさま、そして **MLAP** にご参加して下さったみなさま、親身に丁寧に相談にのって下さった文部科学省の担当の方、みなさまに心から感謝申し上げます。

本当に有難うございました🍀

**MLAP** の活動の始まりと終わりの挨拶は「むらっぷう！」です♪

いつか、どこかで、**MLAP** でお会いできますように♪

むらっぷう♪

＼(^o^)/

